

## 研究ノート

# 「特別の教科 道徳」の課題と展望 — これからの授業実践の方向 —

西村 眞\*1

キーワード：道徳科、課題と展望、指導の工夫、多面的・多角的

### 1 はじめに

道徳教育が「特別の教科 道徳」の導入により、より確かな分野として位置付けられてきている。学校現場における「いじめ」や「不登校」「校内暴力」など解決すべき課題が山積している昨今の中にあつて、コロナ禍によりますますその問題が複雑化している。これまでも全教育課程の中で道徳教育を実践するよう求められてきたが「特別の教科 道徳」を教育課程に位置付けることによりその指導や内容を強化するものである。平成26年10月に「道徳に係る教育課程の改善等について」の答申<sup>1)</sup>では以下の改善の方向性が示された。

- ①道徳の時間を「特別の教科 道徳」(仮称)として位置付けること
- ②目標を明確で理解しやすいものに改善すること
- ③道徳教育の目標と「特別の教科 道徳」(仮称)の目標を明確にすること
- ④道徳の内容をより発達の段階を踏まえ体系的なものに改善すること
- ⑤多様で効果的な道徳教育の指導方法へと改善すること
- ⑥「特別の教科 道徳」(仮称)に検定教科書を導入すること
- ⑦一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価を充実すること<sup>2)</sup>

これらの項目を踏まえ道徳科では目標を明確にして一人一人が道徳の問題を自分自身の課題としてとらえ「考える道徳」及び「議論する道徳」へ転換を図るこ

とが必要である。

### 2 道徳科の目標と課題

道徳科の目標は次のようである。

「第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。」<sup>2)</sup>

この目標に照らして道徳科では教育現場の授業実践において次のような課題が挙げられている。

- ①道徳的価値への理解を深める教材と指導の工夫
- ②自己を見つめるための主要発問と個別の問いかけ
- ③物事を広い視野から多面的・多角的に考える指導の工夫
- ④人間としての生き方についての考えを深める集団での話し合いの仕方や支援の在り方
- ⑤道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるための指導の効果を高める工夫
- ⑥一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価の在り方<sup>3)</sup>

これらの課題を設定して授業を実践するとともに、生徒の反応や話し合いの仕方や内容及びカード等の記入内容などにより授業過程を分析して課題を探究する。そのために授業研究会において話し合いの内容を可視化しながら今後の研究に生かし、指導の在り方を蓄積していく工夫をすることが必要である。

\*1 至誠館大学 現代社会学部

### 3 授業実践の課題と指導案

(1) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度に関わる道徳的価値

ここでは特に「郷土を愛する態度」に関わる道徳的価値と実践について分析する。中学校での目標は次のようである。「郷土の伝統と文化を大切にし、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬の念を深め、地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛し、進んで郷土の発展に努めること。」<sup>4)</sup> ここでの道徳的価値は、家族や社会に尽くした先人や高齢者などの先達によって自分が支えられて生きていることを自覚し、それらの人々への尊敬と感謝の気持ちを深めることは極めて大切なことである。また、郷土や地域を愛し、積極的・主体的に関わり郷土のために自分ができることは何かを考え、郷土の発展のために自分が寄与しようという意識を高めることである。

(2) 郷土を愛する態度に関わる実践の具体的な課題

①道徳的価値への理解を深める教材と指導の工夫  
教材としては教科書をよく分析して活用できるよう事前にポイントとなるキーワード等を取り上げ発問に生かすようにする。「千年先のふるさとへ」<sup>5)</sup>の教材の概要は次のようである。

「宮城県女川町は東北大震災に見舞われ大きな被害と犠牲者を出した。そこで、授業において私たちが今できることを話し合い、地元の住民や業者及び全国の賛同者や業者の協力を得て「いのちの石碑」を建立して津波のことを後世に残す活動のよさを伝える教材である。」ここでは、故郷のために自分たちができることを話し合い、石碑の建立というところまでこぎつけた行動力が郷土を愛する心に裏打ちされたことであるという道徳的価値を自覚できるとよい。指導の工夫としては地域の方々を招聘して各グループに入ってもらい、生徒の意見をよく聞いていただきながら、自分たちの故郷への思いを伝えていただく活動を仕組む。4名の地域の方々はいきいきと地域の活動を推進している方々

である。

②自己を見つめるための主要発問と個別の問いかけ

発問1：あなたにとって故郷はどんな場所ですか。

発問2：女川中の生徒たちの石碑に込められた思いはどんなものですか。

中心発問：世代、年齢等に関わらず、人がふるさとに惹かれるのはなぜですか。

特にここでは、中心発問がグループでの話し合いの中心となるので個人の考えや意見をしっかり話し合わせ地域の方々の思いをくみながら多様な考えを出させる。

③物事を広い視野から多面的・多角的に考える指導の工夫

郷土に対する思いを話したり、語っていただいたりすることや郷土について調べたり地域の行事に参加する体験をした活動をまとめることにより多面的・多角的に考えることができる。教師として事前に地域の方々とよく打ち合わせをすることが必要である。

④人間としての生き方についての考えを深める集団での話し合いの仕方や支援の在り方

各班のボードと個人のカードへの記入により、考えや意見を可視化して提示し、波及効果を高める。

⑤道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるための指導の効果を高める工夫

カードは生徒も記入するが、地域の方々にも記入していただき、発表の時にはボードにおいて生徒と地域の方々を分けて提示し、心情面を高めるようにした。

⑥一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価の在り方

今回の改訂で評価を位置付けているので意見やつぶやき、カード等を蓄積して考え議論する道徳について個人内評価として扱い、記述により表現する。特に記述式のカードを分析して生徒の授業による変容を記録するとともに実践力や態度等も付記しておくといよい。

以下授業実践の学習指導案及び授業記録を課題に即して分析・考察する。

#### 4 研究経過

2017年に指導要領が告示されて、これまでの「道徳」が「特別の教科 道徳」となり現場では道徳の授業のあり方について改めて研鑽を重ねる必要があり、文部科学省及び県教育委員会では研究協力校を指定して道徳教育の研究を継続してきている。萩阿武地区では2019~2020年には越ヶ浜中学校、2021~2022年には阿武中学校が研究協力校となり地区をリードして研修を重ねてきている。この2校に訪問して校長及び研修主任にこれまでの研究経過や研究主題及び授業の在り方等その概要を説明していただくとともに研究授業を参観し、研究会に出席して教師の協議にも参加してきた。

共通している研究の内容は以下のとおりである。

- ①研究主題を設定して研修を重ねている。
  - ②授業研究及び協議会を通して研究力を磨いている。
  - ③校内の教員だけでなく萩地区の学校の教員を対象にするとともに、小学校の教員も参加している。
  - ④教育委員会により選定された共通の教科書を使用している。
  - ⑤評価規準を設定して個人内評価をしている。
- 以上①~⑤の項目を共通にして越ヶ浜中学校の研修主任が阿武中学校の研究会にも参加して研究の引き継ぎ及び深化が図れるよう協力している。

阿武中学校の研究と本研究についての関わりは以下のようなものである。

- ①校長と研修主任から道徳教育の概要の説明を受けて授業研究及び研究会に参加することの承諾を得る。
- ②研究授業に関わる資料を分析し、研究に協力・寄与することの承諾を得る。
- ③2年間研究を継続されるので今後引き続き参加していくことの承諾を得る。

特に今回の研究授業については学校として生徒の意識のつながりを大切にして取り組んでいる。その特色ある内容は以下のとおりである。

- ①「郷土愛」を題材として阿武町のよさや阿武町の今

とこれからの課題を考え議論している。

- ②阿武町の子ども議会に生徒が参加して、今の阿武町のよさや課題及びこれからの阿武町について質問したり、議論したりして郷土についての意識を高めている。
- ③これまでの道徳の授業では地域人材は1単位時間に一人で、その人に講話をしていただくことが多く見受けられたが、今回は各グループに地域の方々が一人ずつ入って議論に参加いただき、意識を高めていただいている。
- ④生徒用の自己評価カードを充実させて、授業後の振り返りや評価を丁寧にできるよう工夫している。
- ⑤授業研究会において各グループでの話し合いの内容を1枚の模造紙にまとめて発表するとともに記録として研修の足跡にする工夫がなされている。
- ⑥生徒用の自己評価カードだけでなく、教師用の研修カードを活用して内容の進化を図る工夫がなされている。
- ⑦研修が確かな内容になるよう元山口大学で現在近畿大学の教授である佐伯教授に継続的に指導助言を頂いている。佐伯教授は道徳教育が専門で様々な大学や研修会の講師を担当されている。これまで本学の「道徳教育の理論と方法」についても担当いただいている。特に今回の指導助言の中で生徒が議論するとき意見を言うことも大切であるが、異見も大切にするよう指導されている。

### 第3 学年道徳科学習指導案<sup>5)</sup>

令和3年10月20日（水）第5校時場所第3年1組教室

1 主題名 「郷土の発展に寄与する」[内容項目C (16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度]

2 教材名 「千年先のふるさとへ」(廣済堂あかつき『中学生の道徳3』より)

#### 3 主題設定の理由

(1) 地域社会は生徒にとって家庭や学校とともに大切な生活の場である。しかし、存在が当たり前になりすぎているため、地域社会に対して感謝の気持ちをもつことが難しくなっているのではなかろうか。将来的にどこで生活するかは個人の判断であるが、地域社会との接点なくしては生活できない。親や地域住民など、身の回りの大人が「ふるさと」に対して抱く思いに触れる機会を得ることなどにより、地域社会を大切にしながら発展させていこうとする意欲を育むことは大切だと考える。

(2) これまで、生徒たちは社会に尽くした先人や高齢者の思いを学習することで、郷土の伝統や文化を受け継いでいくことの大切さを学んできた。また、総合的な学習の時間を通して、ふるさとについて学習し、昨年度、ふるさと阿武町がどのようにすれば発展し、住みよい町になるかを考えまとめて、阿武町子ども議会で発表した。その発表までの過程の中で、生活の利便性に終始することもあったが、阿武町の自然や産業の特色を生かそうとする意見も出て、ふるさとを発展させようとする意識が高められたと考える。しかし、実際に成人後にふるさとに残ってふるさとを盛り上げていきたいと考えている生徒は実際には少ないと思われる。それぞれの夢があり、その実現のためには、ふるさとに残ることは難しい生徒がほとんどではないかと考えられる。そこで、人がふるさとに惹かれる理由を考える中で、地域の方のふるさとへの思いに触れることで、地域社会をよりよいものに発展させていこうとする意欲を育てていきたい。

(3) 本教材は、東日本大震災後、女川中学校に入学した生徒たちが、悲参な現実への絶望を乗り越えて、生徒たちが震災の脅威を後世に伝える石碑の建立を決意し、実際に石碑を建立するまでの過程や思いを取り上げたものであり、石碑に込められた思いについて考えることで、ふるさとの存在意義に気づかせるのに適した資料である。指導に当たっては、中学3年生段階での「ふるさと観」を授業初頭に共有させることで、授業初頭の「郷土に対する思い」を全体で確認しておくこととする。簡潔に資料内容を確認した後、資料で中心的に述べられている「石碑」に寄せる女川中学校の思いをつかませたい。そこに資料中の生徒たちが「ふるさと女川」に寄せる強い思いや願いが現れていると思うからである。その際、石碑建立には中学生のみならず多くの住民たちの願いが込められていることも押さえることで、本時に中心的に考えさせたい「老若男女を問わずふるさとを大切にしたい根源的な理由」に繋げることとする。その学習場面では、グループに入られている地域の方からも意見をいただき、これまでの本校生徒が持ち得なかった視点も示唆されることを期待したい。

#### 4 研究の視点との関係 ～ 考え議論する道徳のための工夫 ～

この授業では、「ふるさとに惹かれるのはなぜか」を中心発問にして、ふるさとについて考えさせたい。しかし、生徒は、人生経験も少なく、画一的なものを見方しかできないのではないかと考えられる。そこで、地域の方に参加していただき、これまでの経験値から生まれる地域の方々の方々のふるさとに対する思いに触れさせることで、ふるさとに対しての思いをより深めることができると考える。また、その多様な思いが共有できるように、よいと思った考え方などを取り上げ、その理由を述べることを通して、多面的な考え方ができるようにさせていきたい。

5 本時案

- (1) 主眼 「いのちの石碑」に込められた女川中学校の生徒たちの郷土に対する思いについて触れ、人がふるさとを大切にしたいと思う理由を考えることで、地域社会をよりよいものに発展させていこうとする道徳的実践意欲を培う。
- (2) 本時の展開

	生徒の活動 学習内容	予想される生徒の反応	指導上の留意点・評価の視点
導入 15分	1 ふるさが自分にとってどんな場所かを考える。	発問：あなたにとって、ふるさとはどんな場所ですか。 ア 生まれ育った大切な場所。 イ 心の落ち着く場所。 ウ 守っていききたい場所。 エ いつまでも、心の支えになってくれる場所。	○現在における生徒たちのふるさとへの思いを確認し、今日の授業の主題が「ふるさと」であることを知らせる。 ○資料を事前に読ませるため、プレゼンによって、資料の内容を簡潔に確認する。
展開 30分	2 女川中の生徒たちがどんな思いで石碑を建てようとしているかを考える。	発問：女川中の生徒たちの石碑に込められた思いはどんなものですか。 ア ふるさとをよくしたいという強い思いがあったから。 イ 同じ地域に住むという一体感が生まれた。 ウ 災害が起こったときに、被害が少しでも防げるようにしたいという強い思いがあったから。 (生徒たちだけで実現できたのか) ア 石を扱う業者が石を提供してくれた。 イ 寄付をしてくれたりする人がいた。 ウ 賛同して動いてくれた人がたくさんいた。	○女川中の生徒たちの石碑に対する思いを考えることで、同じ地域に住むもの同士の一体感、ふるさとを大切にしようとする気持ちや未来の人たちが安心して生活できうようにしたいという思いに気づかせる。 ○「生徒たちだけでできたことか」を押しさえることで、他の大人も関わって実現したことを確認し、ふるさとして熱い思いをもつ人たちの存在を意識させ、中心発問へとつなげる。
	3 ふるさに惹かれる理由について考える。	中心発問：世代、年齢等に関わらず、人がふるさに惹かれるのはなぜですか。 ア 自分の生まれた土地であり、大切なものだから。 イ 大切な家族や友達が住んでいるから、守りたい。 ウ これまで生きてきた思い出がいっぱいそこにはあるから。 エ 美しい場所ややさしい人々が住んでいて、そこを残したいという強い思いがあるから。	○グループごとにそれぞれ地域の方に入ってもらっていただき、中心発問について意見交換を行う。それをホワイトボードに書いて、発表させる。 ○後の意見交流に備え、ホワイトボードの上段に地域の方の意見、下段に生徒の意見を書かせ、差異が分かりやすいように工夫する。 ○その意見を見ながら、もっと詳しく知りたいところを尋ねたり、よいと思う意見を取り上げて、理由を聞いたりして、考えを深めさせる。
終末 5分	4 「ふるさととどう関わっていくか」を書いてまとめる。	ア ボランティア活動に積極的に参加する。 イ ふるさとの農業（漁業）を発展させていきたい。 ウ いつかは、ふるさに帰って貢献したい。	○ワークシートに「ふるさととどう関わっていくか。」を書いてまとめる。 【評】振り返りの中にふるさとの発展に主体的に努めようとするのが書かれているか。

## 5 授業実践における課題の分析・考察

### (1) 道徳的価値への理解を深める教材と指導の工夫

該当中学校（阿武中学校）の研究主題は「自ら課題と向き合い、主体的に学ぼうとする生徒の育成」としてサブタイトルを～考え、議論する道徳授業をめざして～に設定している。この主題は今求められている道徳科における課題でありサブタイトルは目標に位置付けられているものである。生徒はこれまでふるさと阿武町が住みよい町になるため総合的な学習でふるさと学習をしたり子ども議会で発表したりしてふるさとの自然や産業の特色をまとめ故郷に対する意識を高めてきている。そこで今回の「千年先のふるさとへ」を教材にすることによりこれまでの自分たちの取り組みを自己評価しながら故郷の存在意義に気づかせるとともに郷土を愛する態度を育てることができる。そのため指導の工夫として地域のために様々な分野で貢献されている方々を数名招聘して故郷に対する思いを聞いたり、話し合ったりする場を設定した。

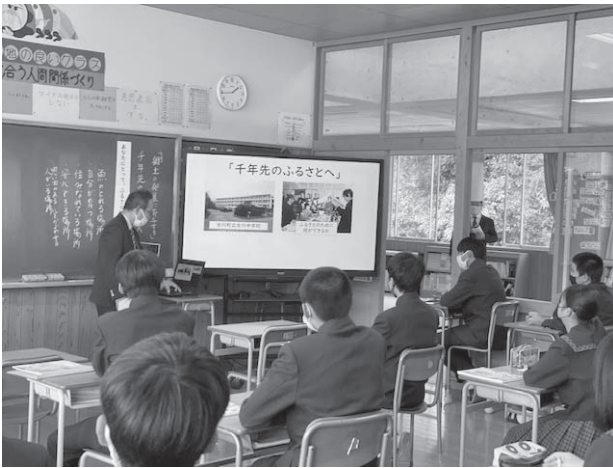


図1 導入 千年先のふるさとへ

### (2) 自己を見つめるための主要な発問及び中心発問と個別の問いかけ

これまでの道徳では中心発問が1つの場合が多く見受けられたが、ここでは、主要発問と中心発問に分けている。教材の分析に多くの時間を割いていた指導の流れから考え議論する流れを作っていくために主要発問で教材をとらえ、中心発問でふるさとへの思いや態度を高めるための発問としている。この中心発問でふ

るさに対する考えや惹かれる思いを議論することにより自己を見つめることができた。教師は一人一人の意見や思いに対して切り返しの問いを発して教材の深読みを働きかけたり、カードへの記入の助言・支援を働きかけたりした。

### (3) 物事を広い視野から多面的・多角的に考える指導の工夫

中心発問である「世代、年齢等に関わらず、人がふるさとに惹かれるのはなぜですか。」に対して各グループでの話し合いの内容を生徒と地域の人とを分けてボードに以下のようにまとめることができた。



図2 グループの発表1



図3 グループの発表2（地域の方）

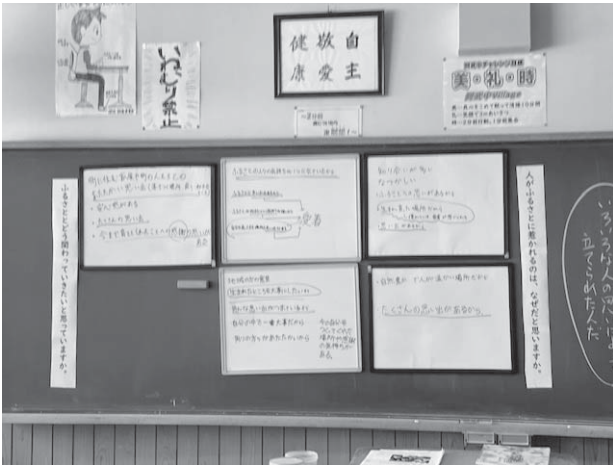


図4 各グループの発表ボード

生徒の考えや意見としては次のようである。

- ・故郷への思いがある。
- ・生まれ育った場所だから。慣れていて愛着があるから。住みやすい。
- ・自分の中で一番大事だから。理由として今の自分を作ってくれた場所や感謝の気持ちがあるから。
- ・故郷に思い出がある。自分が育ってきた場所や思い出がある。まとめて愛着がある。
- ・安心がある。今まで育ててくれたことへの感謝の思いがある。

地域の方の意見は次のようである。

- ・知り合いが多く、なつかしい。
- ・自然豊かで人が温かい。
- ・ふるさとの人々の気持ちが一つになるから。
- ・生まれたところを大切にしたい。
- ・町に住む家族や町の人たちとの温かい思い出がある。  
落ち着いた場所やよさ、安定感がある。

この話し合いで地域の方が生徒一人一人の意見や考えをしっかりと受け止めて、自分の考えを話しておられたことが印象的であった。また、長く故郷で生活してこられた方なので生徒がしっかり質問していたことも雰囲気盛り上げた。多面的・多角的に議論するためには多様な視点から質問する力も問われている。「他の町や県外に行こうと思ったことはありませんか。」とか「郷土に様々な課題を感じたことはありませんか」といった質問もこれからは必要になってくるのではない

か。故郷を出て様々な仕事や体験をして改めてふるさとのよさを認識することに気付かせる先輩が授業で語るのも一つの方向性と考えられる。

(4) 人間としての生き方についての考えを深める集団での話し合いの仕方や支援の在り方

これまでの道徳とこれからの道徳のちがいを際立たせているのが資料に対する発問と自己の生き方に対する発問をきちんと二つ用意しておくことである。そして中心発問として考えを深める話し合いや議論をきちんと授業の中に仕組むことである。前述 (3) の地域の人との集団での話し合いで郷土に対する思いと自分の生き方について考えを深めることによりカードにその思いを記入することができた。その内容については以下のようなものである。

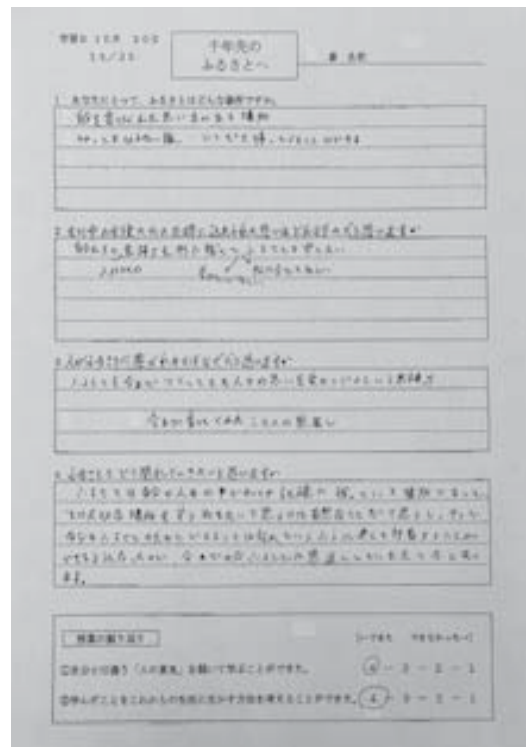


図5 道徳カード (生徒用)

「これから故郷とどう関わっていきたいと思いますか」という中心発問を受けての問いについては以下の記述が見られた。

- ・ふるさとは自分の人生の中でもっとも記憶に残っている場所であって、その大切な場所を守りぬきたいと思うのは自然だと思うし、やっとな自分もふるさとのた

めにできることは何かというふうを考えて行動することができるようになったので、今までの分をふるさとに恩返ししていきたいなと思います。

・これから私はふるさとを今以上に大切にし、思っていきたいと思います。阿武町は周りの人が温かくしかも住みやすい安心する場所です。そんな阿武町を大事に守っていききたいなと思いました。これから未来をつくっていく私たちがふるさとを元気にしていかないと思うのでがんばっていきたいなと思います。ふるさとにいつか恩返しをしたいし、できたらなと思います。今の自分がいるのはふるさとのおかげだと思います。

・私たちは今までふるさとに地域の方々に守られて生きてきたのだと思います。総合の時間でやってきたように地域のことを考え行動することが大事なのだと思いました。守られてきたのなら、これからは私たちが守らなければいけないし、つくっていかなければならないのだと思いました。将来、阿武町に残るかはいわかりませんが、「もう住んでいないから」ではなく、一生、「ふるさと」として大事に思っていきたいです。

この問いかけについては5行程度でしっかり自分の考えやこれからの生き方についての考えが書かれていますので毎時このカードを活用して授業が展開されていることで実践意欲を高めている。

(5) 道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てるための指導の効果を高める工夫

道徳はこれまで全教育課程の中で判断力や心情、実践意欲及び態度を育てよう取り組まれてきたが、明確な取り組みの支援や指導の効果について論じられる場面が不足していたことが指摘されている。これからは授業で扱った道徳的価値や内容を掲示やノートやカード等をポートフォリオ化したり、総合学習的に扱ったりしながら実践意欲や態度を育てていく必要がある。今回は阿武町の子ども議会等での発表で横断的・総合的に扱うことにより郷土を愛する態度を育むよう計画されていて、実践意欲を高めている。カードの内容に

も議会体験が散見された。

(6) 一人一人のよさを伸ばし、成長を促すための評価の在り方

一人一人のよさを伸ばすためには確かな自己評価と客観的な他者評価及びよさを認め合う相互評価が必要である。これまでの道徳では自己評価や相互評価は授業の中で実践されてきたが、他者評価については十分ではなかったので、記述式とし一人一人のよさを客観的に評価することで、成長を促す契機にできるとよい。一人一人のよさが記述として記録されることで自分の心の成長や道徳心の高まりを確かに感じることができる。教師はカードに記入された一人一人の思いについて丁寧に問い返し、思いのよさを価値づけることで郷土を愛する態度を育てる実践となっていた。

カードでの振り返りでは①自分とは違う「人の意見」を聞いて学ぶことができたか。と②学んだことをこれからの生活に生かす方法を考えることができたか。の2点について4段階で自己評価をした。①の違う人の意見という視点が効果的でいわゆる異見を聞く態度を育てることができる。②の項目はこれからの道徳科には重要な実践意欲への高まりの評価項目である。

## 6 道徳科教育の展望

### (1) これからの道徳科の展望

課題の分析・考察からこれからの道徳科の授業実践の在り方について展望する。

①道徳の教科書の導入により教材が教師に共有されることで教材研究が広く深くされることになるので指導の方法が確かになる。ここでの「千年の先のふるさとへ」という教材は郷土ふるさとのために行動を起こす教材なので総合単元的に郷土学習とセットになるような横断的な単元計画が実践意欲を高めることとなる。教科書の教材のみで進めることなく多様な情報を組み合わせたり、多様な教科を組み合わせたりして展開できるとよい。

②これまでの道徳は中心発問が一つであることが多く教材の道徳的価値を確かめ、生活への実践意欲を高め



る展開が見受けられた。そこで、これからは主要発問として教材の道徳的価値を確認して、中心発問として価値について多面的・多角的に議論できるような状況を作り出せるとよい。そのためには中心発問による話し合いの時間は十分確保する必要がある。また中心発問から実践意欲が高まることが期待される。

③これまでの話し合いから議論ができる状況を作り出していくことが求められるので多様な視点から議論ができるような情報を提供できるとよい。物的な環境や人的な環境及び情報環境など多様な教材の環境を提供することによって議論が深まる。ここでは地域の人材を4名も招聘して人的環境を整えて授業が展開されている。このように道徳的価値に関わる地域人材の派遣活用は実践意欲を高めるにはとても効果がある。阿武町では、道の駅の開設に尽力した人やキャンプ場開設を実践している人やコロナ感染者0を継続・実践している保健医療関係者など実践者から学ぶ道徳を推進できるとよい。

④道徳カードには主として3項目を記述するようにして授業を構成できるとよい。教材に対する意見や思い、中心発問に対する自分の意見や他者の意見、そしてまとめとして行動に移させるための決意や思いを書いて発表できるとよい。特に自己の生き方に関する記述を重視して、書くだけでなくそこに至る個人の思いをしっかりと聴きながら授業の中で発表できるようにする。

⑤判断力、心情を教材や主要発問により十分培うことはできるが、実践的意欲は中心発問を議論するだけでは高めることが不十分である。そこで指導の工夫として地域人材の活用や副教材の活用、動画や写真などのICT活用を通して実践意欲を高めることが大切である。そのためには授業前や授業後の指導としてカードやノートなどを細かく評価して意欲につなげていく教育活動が期待される。短い言葉で生徒の心を動かす洗練された教師の言葉があるとよい。

⑥一人一人のよさを評価することで成長を促すことができるということを前提として記述式の評価を導入し

ている。「よさ」とは一人一人が考える判断や心情、道徳的実践意欲等の言葉や行動を示したものである。よさは可能性を持った課題等も含まれ幅広くとらえることが成長を促すことにつながる。「～しようとする心情を持っていて、～するときに顕著に表れる」等教育場面をとらえた記述が今後望まれる。教師のたゆまぬ指導と適切な価値付けの言葉が必要である。また細やかなよさを発揮する継続的な指導が望まれる。

(2) これからの授業研究の展望

授業研究においても教師一人一人が自分の意見をしっかりと持って会に参加できるように参観カードに記入してお互いが臨むことにより充実した研修を行うことができる。また協議の場面ではお互いがKJ法により自分の意見をカードに書いて大判用紙上に価値付けながら貼り付けて班全体の意見を可視化してまとめていく。KJ法ではいくつかの意見をまとめて囲みそれらの意見のまとまりにタイトル等をつけて分かりやすくしていく工夫が求められる。これら一連の作業を通してカードとともに協議の内容も記録することにより次の研究に生かしていく。

道徳科授業参観シート		所属	氏名
令和3年10月20日(水)		授業者	
■授業評価の視点に関する場面が見られた部分に○印を付けてください。			
授業評価の視点			
①道徳的価値についての理解を深める。	導入	展開	終末
②自己を見つめる			
③物事を多面的・多角的に考える。			
④自分の生き方について考える。			
「考え、議論する道徳」を展開するための3つの学習活動			
道徳的価値についての理解を基に、			
①自己を見つめる。			
②物事を(広い視野から)多面的・多角的に考える。			
③自己の(人間としての)生き方についての考えを深める。			
導入	自己を見つめる。(道徳的価値への方向付け)		
展開	自己を見つめる、物事を多面的・多角的にとらえることにより議論へとなが対話、協働を促す。		
終末	視点①、②、③を意識して振り返りを行い、これからの自分を考えさせる。		
■上記の「3つの学習活動」に照らし合わせて、ご記入ください。			
導入	良い点		
	課題		
	代案		
展開	良い点		
	課題		
	代案		
終末	良い点		
	課題		
	代案		
■授業全体を通しての気づき			

図6 道徳科授業参観シート(教師用)

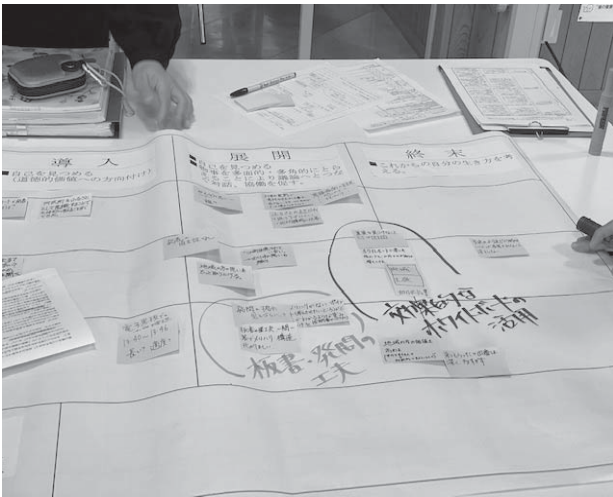


図7 KJ法による話し合いの図



図8 研修グループの発表

これからは授業研究の在り方についても研究しお互いにタブレット端末で意見を交換しながらまとめていき次の課題を模索していく研究体制になっていくと考えられる。研修においても一人一人が自分の意見をタブレットに打ち込み電子黒板上に意見を集約して、それらの意見や異見に小タイトルをつけてさらにまとめて上げていく手法に移行されている。一方でこれからは紙媒体から電子媒体に移行して、動画等の媒体を通して研究や研修を行う方が効果的であるし、多くのことを短時間に処理することができる体制を整えていくことが求められる。膨大な研究・研修の記録を最大限生かすことのできる方法を模索していくことも求められている。

[引用文献]

- 1) 文部科学省 (2015) 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』教育出版, 2
- 2) 文部科学省 (2015) 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』教育出版, 13
- 3) 文部科学省 (2015) 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』教育出版, 14-18
- 4) 文部科学省 (2015) 『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』教育出版, 25, 56-57
- 5) 阿武町立阿武中学校(2021) 『道徳科学習指導案』

2-3

[参考文献]

- 1) 文部科学省 (2021) 『中学生の道徳3 自分をのぼす3』あかつき教育出版, 137-140
- 2) 貝塚茂樹 関根明伸 (2016) 『道徳教育を学ぶための重要項目100』教育出版, 60-61
- 3) 田沼茂樹 (2016) 『道徳科で育む21世紀型道徳』北樹出版, 26
- 4) 加藤宣行・竹井秀文編 (2015) 『実践から学ぶ深く考える授業』光文出版
- 5) 山口圭介 (2015) 「新たな時代の道徳教育の課題と展望—学校における道徳教育の二重構造に着目して—」『玉川大学教育学部研究紀要』14, 81-95
- 6) 伊藤敬一 (2016) 「「特別の教科 道徳」新時代の授業づくり—研究者からの提言「批判的吟味」による質的転換を—」『道徳教育』695, 68-70
- 7) 橋迫和幸 (2018) 「道徳の教科化をめぐる問題とその克服の課題」『九州保健福祉大学研究紀要』19, 9-19
- 8) 中山和彦 (2018) 「「特別の教科 道徳」の課題と展望」『白鷗大学論集』31 (2) 221-247
- 9) 文部科学省 (2014) 「道徳に係る教育課程の改善等」  
<https://www.next.go.jp/b-menu/shingi/chukyo/chukyo/tos hin/-icsFiles/afiedfile/2014/10/21/1352890-1.pdf>  
 (アクセス日 2021.9.30)